



[PRESS RELEASE]

2011年1月20日

東京大学医学部

東京大学医学部附属病院

東京大学医学部・医学部附属病院「健康と医学の博物館」開館のお知らせ

東京大学医学部・医学部附属病院は、創立150周年記念事業の一環として平成23年1月20日に「健康と医学の博物館」を開館しました。「健康と医学の博物館」では、近代から現代にわたるわが国の医学の発展における本学医学部・医学部附属病院の貢献について紹介すると共に、医学・医療をわかりやすく紹介するトピック形式の企画展示を行います。多くの方のご来館をお待ちしております。

東京大学医学部・医学部附属病院は、安政5年（1858年）の神田お玉ヶ池種痘所の設立に起源を發し、平成20年に創立150周年を迎えました。創立150周年を迎えるにあたり、私共は記念事業のテーマとして「社会に開かれた医学・医療の展開」を掲げました。「健康と医学の博物館」の創設は、その一つの柱としていた企画であり、約2年にわたる準備を経て、この度、平成23年（2011年）1月20日に開館しました。

「健康と医学の博物館」では、近代から現代にわたるわが国の医学の発展における医学部・医学部附属病院の貢献を紹介すると共に、一般の方に医学・医療の最新の進歩をよりよく理解していただくための企画展を展開します。

展示スペースは常設展と企画展の2つに分かれています。常設展ではこれまでの業績、歴史を短時間で概観できる構成としています。具体的には明治初期の医学書や医療器具、石原式色盲検査表、本学で開発された胃カメラなどを展示します。企画展では医学・医療に関してわかりやすく紹介するトピック形式の展示を行います。企画展は年に数回の入れ替えを行う予定です。多くの方のご来館をお待ちしております。

【展示の概要】

企画展 感染症への挑戦

起源が神田お玉ヶ池種痘所にあることに因み、初回の企画展では「感染症」を取り上げます。企画展のテーマを「感染症への挑戦」と題し、病原体、関連する疾病などの感染症に関する正しい知識の提供を行いながら、本学および本学出身者が行ってきた感染症に関する研究、現在の取り組みを紹介します。

※初回の企画展は、平成23年1月20日から5月上旬まで（予定）。

常設展 近代から現代への医学の歩み 医学部と附属病院の150年

150余年にわたる医学部・医学部附属病院の業績、歴史の中で、特筆されるものを中心に紹介します。初期の時代にドイツ人教師によってもたらされた医学書、医療器具を展示し、その後日本人によって作られた人工癌などの世界的な業績を紹介します。

【施設概要】

既存の医学部総合中央館（医学図書館）の一部を改修し、常設展示室 約 70 m²、企画展示室 約 230 m²など、全体で約 400 m²を整備

【開館時間など】

開館時間： 10時～18時

休館日： 毎週月曜日、年末年始。ただし月曜が祝日の場合は開館。

入館料： 無料

ホームページ： <http://mhm.m.u-tokyo.ac.jp/>

【所在地】

東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学本郷キャンパス内 医学部総合中央館（医学図書館）地下1階

本郷三丁目駅（地下鉄丸の内線） 徒歩 8 分

本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線） 徒歩 6 分

湯島駅又は根津駅（地下鉄千代田線） 徒歩 8 分

東大前駅（地下鉄南北線） 徒歩 10 分



《本件に関するお問合せ先》

東京大学 健康と医学の博物館 事務室

<http://mhm.m.u-tokyo.ac.jp/>



健康と医学の博物館ロゴマーク



健康と医学の博物館 外観



健康と医学の博物館 展示風景（パース）